

## 総合演習

### 授業タイトル :ネパール支援プロジェクト

#### 子供の設定 :

- 地域の特徴  
都心の子どもたち。一家族の人数は小規模。一人っ子の家庭が多い。兄弟、姉妹がいないため、家庭において“分かち合う”機会が少ない。  
総合の時間で、異文化理解、異文化支援教育に取り組んでいる学校。授業では、主に英語圏の国と、アジアの国を学ぶ。
- 学年  
第5学年
- 子供達の構成  
男子15人 女子15人 (30名)

異文化理解の時間を通して、子どもは、ネパールにおけるブータンからの難民の生活を学ぶ。その後、子どもの中から、何か自分も行動したいという提案がある。

#### 教師の問題意識 :

子どもの中から、“何かしたい”という思いが生まれたことは、教師として喜ばしいことである。この自ら進んで社会に貢献しよう（ボランティア）という気持ちを支援したい。

しかし、ボランティアは、相手が何を求めているかを考えなければ、“余計なお世話”や“自己満足”になりかねない。相手の状況を分析し、相手に必要なことに応じて自分たちにできることを支援することが大切である。

人のために行動することは、相手に必要なことを考え、分析し、判断していくプロセスを通して、自身の学びとなって返ってくる。自分にできることを実行し、それを振り返ることで、子どもたち一人一人の学びを深めていけるよう支援したい。

#### 授業目的 :

ネパールの置かれている状況を分析し、ネパールの支援を必要とする人が求めることを、自分自身の問題としてとらえ、自分たちで考えた支援を、計画、実行、評価、改善しながら、同じ地球人として何か貢献していくことを目的とする。

#### 子供達の到達目標 :

1.  
ネパールの産業を支える人々の生活環境を分析できる。  
分析した結果と自分の生活環境を比較できる。
2.  
ネパールの働く子供たちへ適切な支援方法を提案できる。  
挙げられたリストの中から、自分たちにできることを選ぶことができる。
3.  
自分たちで考えた支援を計画、準備、実行、評価、改善できる。
4.  
自分たちの活動を振り返る。  
お互いに行動をフィードバックをする。

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要  
 (達成目標をクリアするのに必要なだけの授業を計画します)

授業回数	テーマ	各授業での子供達の具体的な達成目標
1	ネパールの産業と労働力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールでは農業、カーペット・既製服の輸出、観光業が重要な産業であることを挙げられる。</li> <li>・産業を支える労働力として多くの子どもたちが搾取されていることを指摘できる。</li> </ul>
2	ネパールの働く子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールの働く子どもの生活環境をまとめることができる。</li> <li>・ネパールで、子どもたちが労働力として搾取される背景をプリントにまとめることができる。</li> <li>・ネパールの子どもの生活環境と自分の生活環境を比較し、違いを挙げられる。</li> <li>・支援することについて意味を見出すことができる。</li> </ul>
3	自分たちにできることって何だろう？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパールで働く子どもたちに必要な支援を挙げることができる。</li> <li>・挙げられた支援の中で、実現可能なものを選択する。</li> </ul>
4	さあ計画！	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択した支援方法の計画を立てる。</li> <li>・必要な準備を始める。</li> </ul>
5	実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を実行する。</li> </ul>
6	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの決算レポートを作成できる。</li> <li>・プロジェクトを振り返り、学んだことをクラスの中で発表できる。</li> <li>・ボランティア活動をして学んだことをプロジェクトの改善という形でフィードバックする。</li> </ul>

本時の授業：上記の表の \_\_\_\_ 3 \_\_\_\_ 回目の授業 (模擬授業は上記の授業計画の中の1つの授業をします)

本時の授業でのポイント (☆) や指導上の注意点 (★) :

☆支援を必要とする人が求めている支援方法を選ぶ。

☆自分たちができること (時間、費用、人材) と照らし合わせて支援方法を選ぶ。

★計画を実行する時間は3時間

★費用は学校で出すことができない。

★文房具、模造紙など、学校の備品は貸出することができる。

★自分たちの力で、周囲に協力を求めることも含め、行動することが基本。

授業方法：なぜ、その授業方法/教材、etc.を選んだのか？

話し合いによる合意形成

子どもたち自身に考え、計画、行動してほしいため

本時の授業：具体的な支援方法の中で、実現可能なものを選択する。（T：教師、C：子ども）

流れ	教師の指示内容	教師の動きなど	時間
導入	<p>前回の活動の振り返りと支援方法決定への導入</p> <p>T「前回の授業では、JICAのネパールの支援活動にはこのようなことがあるとわかったね。今日は、これらを参考にして、自分たちが実際に支援することを考えましょう。」</p>	<p>前回の授業で挙げられた、支援方法の書いてあるプリントを配布する。</p>	3分
展開	<p>T「それでは今から班になって貰います。班でプリントを見て、この方法はこの方法はこの方法は私達にはできないよってものに分けてみよう。なんで出来ないのかという理由も一緒に考えてみようか。」</p> <p>T「では班ごとに分けたものとその理由を聞いていこう。」</p> <p>G1「私たちの班では、学校にボールを送るという意見が出ました。本当は、学校を建てたいけど、学校を建てるのは、自分たちが現地に行くことはできないし、お金も、学校が建つほど集められなさそうだから…」</p> <p>T「なるほどね。2グループはどんな意見が出ましたか？」</p> <p>G2「私たちのグループは火鉢を送るという案が出ました。やっぱり、冬は寒いというのが印象的でした。学校は作っても、いける子どもは少ないと思うから、多くの子どもの生活を支えることができたらいいと思います。」</p> <p>T「わかりました。3グループは？」</p> <p>G3「私たちのグループでは、学校を建てるという意見が出ました。字が読めなければ、貧しさから抜けられないと思う。いつまでも騙されてしまうし…。学校とか、子どもが勉強できる場所を作るのは大切だと思う。」</p> <p>T「なるほど。グループ4ではどうでしたか？」</p> <p>G4「私たちのグループも、グループ3と同じです。子どもたちが、勉強する環境を作った方が、長い目で見たときに、支援になると思う。」</p> <p>T「わかりました。じゃあ最後に5グループは？」</p> <p>G5「私たちのグループは、ボールを送るという意見が出ました。学校には行けなくても、遊ぶことで、元気になってほしいから…」</p> <p>T「はい、ありがとう。全部の班の意見が出たけど、学校を建てたいというグループと、学校を建てることは困難であったり、建てても支援として効果的ではないから、他の支援にしたいという意見が出ましたね。」</p> <p>C「学校を建てるのは大切だけど、自分たちにできるかな？」</p> <p>T「そうだね。学校を建てたいけどっていう子もいるよね。じゃあ、学校を作るのにお金がかかるという意見が出たけど、いくらかかると思う？」</p> <p>C「1000万円？」</p> <p>T「もっと少ない。」</p> <p>C「500万？」</p> <p>T「そうだね。4教室分の学校を建てるには、200万円くらいかかります。それにあわせて、教育設備などを含めると、おおよそ300万円かかります」</p> <p>C「そんなにはお金を集められないかも」</p> <p>T「そうだね。どうやってお金を集めるかも工夫が必要だね。ところで、はがき1枚で、学校を建てるためのレンガをいくつ買えると思う？」</p> <p>C「半分くらい？」</p> <p>C「1個も買えないと思う」</p> <p>T「実は、はがき1枚で、レンガが5つ買えるんだ。ちなみに、ノートは2冊買えるよ。」</p> <p>C<sub>1</sub>「じゃあ、お金を集めるだけじゃなくて、はがきを集めても支援ができるんだ」</p> <p>C<sub>2</sub>「それなら、学校を建てられるかもしれないな。」</p> <p>T「お金の問題は解決しそうかな？では、通えない子どもがいるかもっていう意見に対して、学校を建てたいという意見だった子はどう思う？」</p> <p>C<sub>3</sub>「みんなが通えないかもしれないけど、学校は必要だと思う。一人でも多くの子が大人に騙されなくなったら、何年かかかるけど騙されることってなくなってくんじゃないかな？」</p> <p>C「その意見を聞いたら、学校を建てるのって大切だと思った。」</p> <p>T「じゃあ、まずは子どもの生活を支援したいというグループがあったけど、</p>	<p>班分けはトランプで行い、グループを無作為に組ませる。</p> <p>案を板書する。</p>	30

	<p>それに対してはどう思う？」</p> <p>C 「生活の支援は大切だと思う。私は、学校とか、子どもが安心していられる居場所を作って、そこに生活を支援するものを送ったりしたいな。最初に生活支援のものを送っても、大人や役人に持ってかれちゃいそう。」</p> <p>t 「確かに、ただ物を送ったとしても、必ず相手に届くとは限らないよね。今回のプロジェクトだけで、ボランティアを終わりにしないで、また活動を続けることってもちろん大切。それでは、クラスでネパールに対してのクラスの意見をまとめてください。」</p> <p>C<sub>4</sub> 「僕たちのクラスではまず学校を建てたい！」</p> <p>C 「私も。」</p> <p>(意見が学校を建てるにまとまる。)</p>		
まとめ	T 「それでは、次回は学校を建てる方法と、お金かほかぎを何枚集めるかの話し合いをします。」		5分

評価：子供達の達成目標が達成できたかどうか、何を判断基準にするか？  
何をもって、この授業の評価にするか？

具体的な支援方法の中で、実現可能なものを選択する

- \*時間や費用、人的支援といった、支援の実現のための手だてが検討されていること。
- \*クラスで支援の方法を決定できたかどうか。

参考文献

JICA <http://www.jica.go.jp/nepal/index.html>

チャイルド・ファンド・ジャパン [http://www.childfund.or.jp/participation/school\\_group.html](http://www.childfund.or.jp/participation/school_group.html)

Child Workers In Nepal Concerned Center 編 「ネパールの働く子どもたち—機織りに隠された悲惨」 株式会社明石書店,1995。